

個別指導学級生活単元・総合学習指導案

指導者 長濱 好美 山室 元 宇加江貴久子
介助員 平野 貴子 志村朝美 吉本 麗智子

1. 単元名 「ともだちいっぱい」

2. 単元目標

他校の友だちとの交流を楽しむことができる。

活動を通して、相手の思いを受け止め、自分の思いを自分なりの表現で相手に伝えることができる。

自分や友だちの役割が分かり、協力して活動に参加できる。

交流の計画・実現に関わることにより、達成感を味わうことができる。

3. ひびき合う子ども達をめざすための指導の工夫

(1) 児童の実態について

今年度の個別指導学級は、ひかり級3名、わかば級6名、のぞみ級3名の合計12名である。今年度も合同学習を行う際、互いに関わる機会をたくさん設け、自分の思いを表現することや相手の思いにふれることを大切にしていきたいと考えている。

今年度の合同学習では、子ども達は「新しい学年になってがんばっていること」「キャンプに行こう」「お誕生会」を経験している。計画を立てたり役割分担をしたりする中で、友だちと協力したり自分の仕事に意欲をもって臨んだりする姿が見られた。合同学習では、体験を通した活動に重きをおく中、話し合う場も多く取り入れるようにしている。それぞれが自分なりの表現で自分の思いを伝えること（音声言語・指さし・うなずき・支援による代弁等）や相手の思いに目を向けること（音声言語・うなずき・見ること等）を大事にしてきた。また、合同の朝の会においても「見る・聞く・話す・書く・待つ・助け合う」ことも経験している。日々の活動を通して子ども達は、自分の思いを相手に伝えること（支援やヒントを手がかりにしながら）や相手のペースや思いに目を向けることができるようになってきている。

(2) 単元と指導について

学校間交流については、毎年6月には本校を会場にして、新玉小・大窪小・町田小・山王小・早川小の5校とのふれあい活動を2回行っている。内容は、主に7月のキャンプに向けてのスタンプの練習である。自己紹介なども行う中、他校の友だちを視野に入れて行動することができるようになってきている。また、毎年2学期の後半には城山中学校での交流も経験している。歌を歌ったり、プレゼント交換をしたり、ゲームを楽しんだりが主な内容である。卒業した友だちに会えることや自分たちが中学生になったときのことを思い描くこともあり、楽しみにしている。

このような合同学習をふまえて、さらに交流を深めるため、キャンプに向けて交流を行った学校の中で、新玉小学校から本校へ交流の申し出をしていただくようお願いした。相手校からの働きかけにより子ども達に交流への意欲をもたせたいと考えたからである。何よりも両校の子供たちの思いを大切に交流になることを望んでいる

6月の学校間交流と違うところは、本校と新玉小学校との2校間の小規模の交流という点である。そのため、相手の思いや行動が捉えやすく、密度の濃い交流が期待できると考えた。子ども達の願いのもと交流が計画され実現することにより、達成感をもたせたいと思う。また、それをふまえて、城

山中学校との交流に目を向け、今度は発信する側になって働きかけを行うことにより、交流の輪を広げていく意欲をもたせたいと考えている。

(知的好奇心)

導入の段階では、ビデオレターと写真(新玉小の友達の顔写真)、文字カード(相手の校名と名前)を活用することにした。音声・表情が分かるビデオレターは、相手の思いをより捉えやすい。写真や文字カードは、ゆっくりと繰り返し相手を確認することができる。このように新玉小学校の友だちについて、聴覚や視覚に訴えることで交流への具体的なイメージをもたせ、活動への意欲をもたせていくことができればと考えた。

「交流をしたい」という願いをもつ相手に対しての返事については、必然性が出てくる。また、どんな内容にするかは、自分達の思いはもちろんだが相手の思いについても目を向けることになる。

「交流をしよう」という返事とともに「交流の原案(自分達の思いや意見を入れた物)」も相手校に提示し、再度相手校の意見を取り入れるという手順をふんでいく。両校の思いを大切にしたい交流を実現するために、子ども達の必要感をベースに「考える・話し合う・かく・つくる・歌う・演奏する・踊る」(個人で・友だちと協力して)等の活動を継続していくことができるのではないかと思う。

交流会を終えて、思い出を絵や文にしたり、新玉小学校の友だちに手紙を書いたりする活動にも、写真を活用し、意欲をもつてのぞむことができるとよい。また、今までの活動をふり返る場としても保障したい。

(関わり合い)

座席配置

互いが視野に入る座席配置(半円形)にすることによって、自分の思いを伝えやすくし、相手の思いを受け入れやすくする。

パネル・写真・文字カードの活用

パネルは高さや大きさが子ども達の視野に入りやすいことが利点としてあげられる。また、写真や文字カードは視覚的に捉えやすく、自分の思いを相手に伝えるときの支援やヒントとなり、相手の思いを受け入れるときにも同様の意味をもつ。パネルと写真や文字カードを活用しながら互いの思いに目を向けることができる。子どもの実態に応じての支援の中、子ども同士で認め合う場を保障していく(「いいですか。」「いいですよ。」等)。

交流の内容が決まるまで

新玉小学校への返事は必然性をもつ。「交流したい」という合意の中、どのように伝えるか・どんなことをしようか(ビデオをもとに)・新玉小学校の友だちは何をしたいか(ビデオで言っていた他に)の3点を中心とした話し合いをもつ。については、相手が交流についてすぐに返事をほしいのではないかというなげかけをしたい。また、やについては、今までの集会の経験を生かしながらも相手校の思いに気持ちを向けていくことを示唆していきたい。

準備

それぞれの役割を決める際には、互いの希望を尊重しながら今までの経験をふり返るなどして決めていきたい。個で進めていくもの複数の手によるもの等、活動の内容によって違ってくる。そのため、途中経過を報告し合う場の設定は保障したいと思う。みんなで力を合わせて取り組んでいるという意識をもつと共に互いに認め合うことによって意欲をもって活動にのぞむことができると考えるからである。

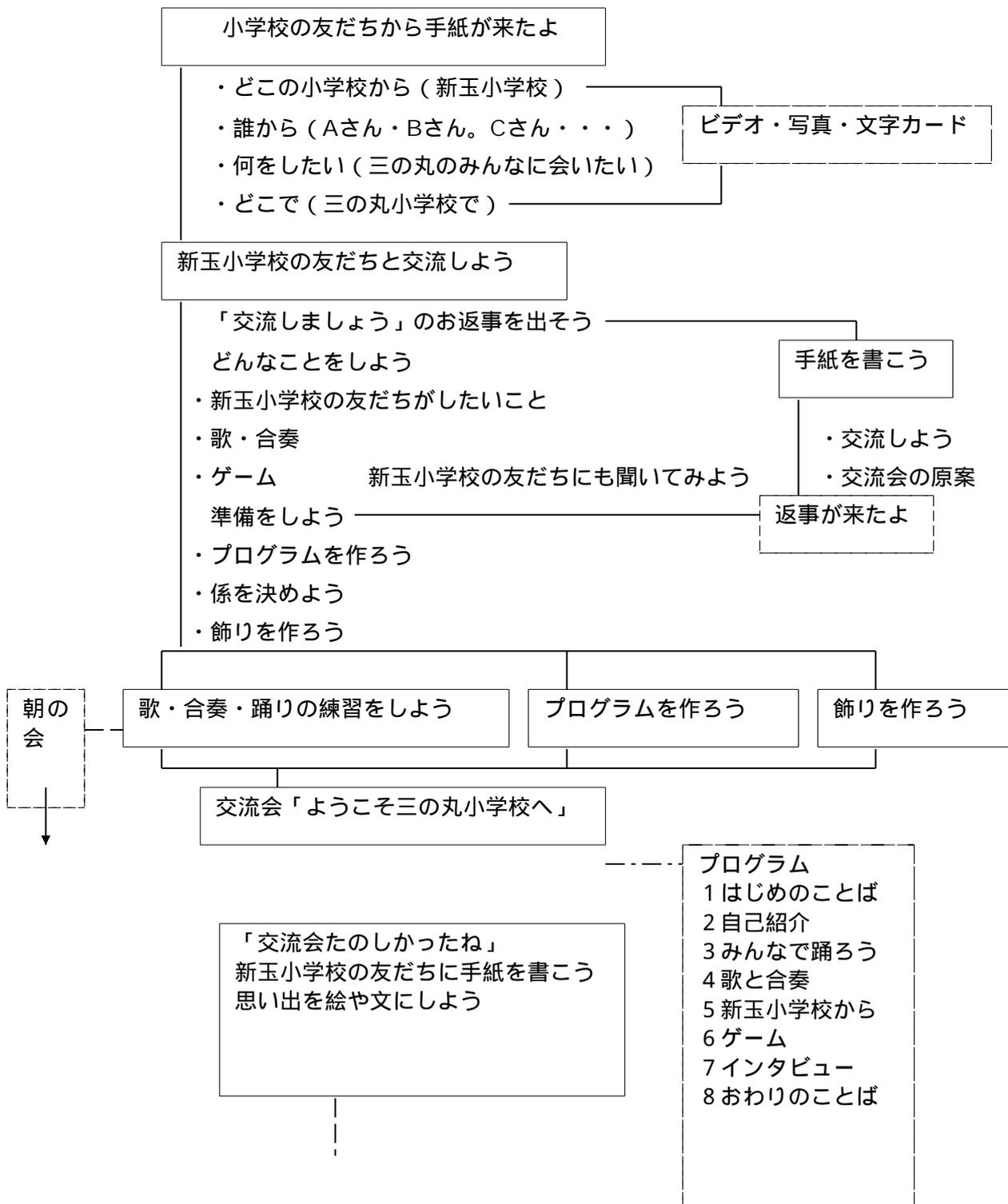
交流会

当日それぞれの役割を果たすことや互いに見合う中、友だちが頑張っていることを認め合えることができるとうい。何よりも交流を楽しめること。そして、新玉小学校の友だちが楽しんでいることをうれしいと感じることができるとよいと思う。当日のインタビューの視点には、それらの内容を示唆し、前日までの活動の中で、指導していきたい。

交流会の感想・手紙

感想を絵や文で表すことや相手校の友だちに手紙を書くことについては、子どもの思いを大切にしていきたい。取り組みに際しては、交流会当日の写真だけではなく準備している場面のものも提示し、友だちとの関わりや協力したことにも目を向けることができるとよい。

4. 単元構成図「友だちいっぱい」（新玉小学校との学校間交流）18時間



城山中学校と今年も交流しよう